

# 「奏でる街」

「絹糸の楽器で清



る井上克也さん(40)が同市の町づくり計画に携わるコンサルタントと縁があったことがきっかけで始まった。映画は、絹糸と紙コップを使い、糸をはじいたりこすったりして琴や太鼓などに似た谷一夫市長(手前右)に思いを伝える尾上松也さん(左)とプロデューサーの井上克也さん(一宮市役所

は「映画を通じて街を盛り上げてもらえれば」と話した。ロケ隊は5月から一宮市内の中心市街地や繊維工場などで撮影を始めるという。一宮市観光協会は、映画制作支援委員会(05866・28・9131)を発足させ、エキストラや協賛金の募集、チケット販売などでロケ支援を進める。映画は一宮市で先行上映し、全国展開する予定。

## 無料の医療相談 外国人「受診」増

### 失職・職場環境悪化で

景気悪化が進むなか、市民団体が無料で行う健康相談会を訪れる外国人が増えている。体調不良を訴えながらも、仕事を失ったり、職場環境が悪化したりして、病院にかからない人が増えているためだ。医療機関の一部には、医療費の未払いにつながることを心配して、外国人患者の受け入れに消極的なところもあるという。専門家は行政機関による対応の必要性を訴えている。(山本晃一)

1月半ば、名古屋市内の研究会に約30人の外国人が相次いで訪れ、医師の問診などを受けた。NPO法人「外国人医療センター」(同市)が県内各地で毎月開いている「外国人無料健康相談会」だ。センターは医療従事者らが約10年前に立ち上げ、こうした相談会のほか、電話やメールでの問い合わせなどに応じている。ポルトガル語やスベ



名古屋市

イン語、英語などに対応している。相談会では血圧測定などをやる。会場では「仕事のストレスでつらい」「夜勤が増えて子どもの世話が大変」といった悩みが聞かれた。活動を始めた98年度の相談者は88人だったが、次第に知られるようになったこともあり、その後は100人台で推移。07年度は230人だった。それが、08年度は2月時点ですでに約240人を数えた。景気の悪化が鮮明になった昨年10月以降だけで見ると、1月半ばの相談は66人で、前年度の同時期より2割以上増えている。

最近目立っているのは、失職して職を探している最中で、帰国する資金がない人や、手取りを確保するために夜勤などを増やし、体調を崩している人からの相談だ。「もともと自分の健康問題を言い出しにくいうえ、会社の業績が悪化する中で体調不良を正直に上司に言うと、仕事を失いかねないと心配する人もいる」とセンターの担当者

ただ、外国人患者については、言語の問題に加え、医療費の未払いにつながることを心配する医療機関も少なくないという。三河地方のある病院の幹部は「うちの通訳は置きません。外国人患者を増やさないためです」と話す。センターの水谷聖子理事(日本赤十字豊田看護大学准教授)は「生活保護の相談など、医療周辺の支援につなげる取り組みを、行政も一体になって進めるべきだ」と提言している。



## ミャンマー変革巡り 研究者らが活動報告

軍事政権下のミャンマー(ビルマ)の現状と課題について考える国際会議「地球市民社会とビルマ/ミャンマーの平和的変革」(ビルマの現状と課題国際フォーラム実行委員会主催)が13、14日、名古屋大学(名古屋千種区)で開かれる。

### 名古屋大で

13、14日は、公衆衛生や報道の自由、人権などのテーマについて国内外の研究者らが報告する。15日は現地で開催するNGOやジャーナリストらの報告のほか、支援のあり方について意見を交わすパネルディスカッションも。フォトジャーナリストの宇田有三さんらが撮影した、現地の様子を伝える写真展も、期間を通じて開かれる。

参加無料。報告は主に英語で、15日のみ日本語の同時通訳が入る。問い合わせは、愛知学院大学総合政策学部の山旗張星允教授(090・3467・4259。会議のホームページは、<http://www.bracl.org/>)。

国際会議13~15日

## NPOの実務

日本NPO「NPOと」の後3時半からの経済学部の開かれる。政府の経員、八代尚徳共サーピス基礎講演す千葉典我孫授、須田木論する。

シンポは11周年次大会の海外事情、予定。非会員一般1万円事前申し込可。詳しくはOsaka U. 問合せ(09

Aグループ 3万3300人

公立高入試

県内の公立高校の一般入試は9日、Aグループの80校で行われ、募集人員1万6504人に約3万3300人が筆記試験に挑んだ。